

である。此北岡神社境内の箱式棺發見の二體人骨に就て清野博士の精細なる正式報告が最後に載せられてゐる。

博士は石器時代人骨、現代アイノ及び現代日本人骨等と比較研究して本古墳發見人骨が吾が石器時代人骨に近似するものがあるこされてゐるのは吾が古代の人種問題解決に寄與する處が少くないこされる。(菊版本文百十二頁、圖版五十葉、熊本縣發行)

### ●大和の特建・國寶・石佛

上田三平編

大和にある特別保護建造物並に國寶等は日本全數の約一割半を占めてゐる。本編はそれらの所在品目を旅行研究者の爲にポケット形におさめたもので約八十頁を以てし主として同縣廳にある國寶臺帳、奈良縣金石年表等によつて市郡別に分類記載せられたものである。卷末に附するに逆算年表を以てしてゐるのは旅行研究者にまつて調法であらう。(奈良、飛鳥園發行、價七拾錢)(以上島田)

## 彙報

### ●皇太子殿下の行啓と台覽品

去る五月十七日皇太子殿下我京都帝國大學に行啓あらせられ、諸種の學術參考品を台覽あらせらる。其際の台覽品にして文學部に屬するもの及び其の説明左の如し。

南北合體條件を記せる足利義滿の書狀(公爵近衛文磨寄託)

教授 文學博士 三浦周行説明

南北朝の合體は歴史上の重要問題なるも、從來未だ其の條件を詳かにせざりしが、本書一たび出でて始めて其の真相を明かにするこを得たり。本書は南北合體に幹旋せる義滿が、同じく南朝の阿野實爲に贈れるものにして後龜山天皇より後小松天皇に三種の神器を傳へらるゝに際し、讓位の儀式を以てすべしとの南朝の提議に同意を表せるこを始め、他の記録の載せさる新事實を傳ふる貴重史料なり。

日本近世天主教の遺物

教授 文學博士 新村出説明

我國近世の天主教は徳川幕府の嚴禁によりて全く其の跡を絶ちたるの觀ありしも其の根柢甚固く、地方により

密かに之を信する者相嗣ぎ傳統は延いて三百有餘年後の

明治大正時代に及べり。即ち其の信徒の遺物墓碑の類往

々諸地方に發見せられ、時に一脈の舊信仰連續斷えざり

しこゝを示すものあり。京阪地方にありては大阪府三島

郡山間の邑里(攝津國高槻茨木の北方)に住する東藤次郎

中谷仙之助中谷源之助大神金十郎の四家に傳ふる所の遺

物の如き其の適例にして西教傳播史並に近世文化史の研

究資料として學術上の價値頗る大なり。該遺物は大正九

年以後二回に亙りて橋川正及藤波大超之を發見して本學

の研究に委し、既に其の結果の一部分は本學文學部考古

學研究報告(第七)に於ても發表を見たり。今遺物中最も

優秀なるもの八點を擇びて台覽に供し奉る。

一、聖フランシスクス、シヤゼリウス畫像

紙本泥畫 東藤次郎所藏

耶蘇會創立者の一人にして日本最初の傳道者たる聖フランシスクス、シヤゼリウスの畫像なり。邦人の手に成りしなるべし。

二、聖母十五玄義圖

紙本泥畫 東藤次郎所藏

周圍には聖母瑪利亞の一代記を畫き、中部には上段に

基督を抱ける聖母、下段に耶蘇會開基の兩主腦聖イグ

ナチウス、ロヨラ(左)及聖フランシスクス、シヤゼリ

ウス(右)を畫き、全構圖佛教の曼陀羅に髣髴たり亦邦

人の手に成りしなるべし。

三、聖母半身像(厨子入)

銅版油畫 中谷源之助所藏

聖母瑪利亞の童形基督を抱ける圖にして、蓋し舶載品

なるべし。

四、ロレット精舎の聖母像(厨子入)

金屬版浮彫油畫彩色 中谷仙之助所藏

伊太利東海岸に近く巡禮地として有名なるロレット精舎に於ける聖母を現はせり。亦舶載品に屬するなるべ

し。

五、基督磔刑彫像(厨子入)

象牙彫 大神金十郎所藏

本邦に残存せる類品中製作精巧なるもの多し。蓋し舶載なるべし。

六、吉利支丹宗門雜錄

平假名交り邦文寫本洋裝一冊 東藤次郎所藏

天主教の教儀祈禱等の要旨を抄録せるものにして、製本の洋裝なるを珍しきなす。

七、ごちりいな、きりしたん(聖教要理)

平假名交り邦文寫本 中谷仙之助所藏

天主教の初學要理を和譯して示したるものにして同種の刊本の羅馬の文庫に存するもの二種中の一に該當す  
カキキズ  
問答書體に綴られたり。

八、ぎや・み・べかざる(勸善鈔)譯書下卷

平假名交り邦文寫本殘缺 中谷仙之助所藏

西班牙ルイス・デ・グラナダ師の名著を翻譯せるものにして當時本邦の信徒間に弘く讀誦せられし譯書の一な

り。慶長の刊本は英佛の文庫に保存せられ稀觀書に屬す。此寫本は刊本より複寫したるものなり。

印度ガンダーラの佛像

教授 文學博士 濱田耕作説明

一、佛像頭部

(谷川茂次郎寄贈)

一、浮彫殘缺

(山中定次郎寄贈)

印度の西北境ガンダーラ(犍駄羅 Gandhara)地方はアレキサンダー大王東征以後希臘文化の影響を蒙り、希臘彫刻の手法亦移植せらるゝものあり、遂に西紀二世紀頃には此の歐西古典の技術を以て佛教的題目を表現するに至れり。大凡佛の形像ある之を以て嚙矢みなすこ謂ふ。其の顔貌鬚髮等頗る希臘人の風姿を具へ、其の衣紋服飾亦大に後世の佛像と殊なるものあるは、此の二例に於ても看取するに難からず。爾後印度の佛教美術は漸く其の國民的特徴を發揮し來るものありと雖、造像の端は即ち此のガンダーラ彫刻に發するものにして、中央亞細亞支那日本等に於ける佛像彫刻も直接間接に此の希臘印度式美術に緣由せざるものなしと稱せらる。蓋し古代東西文化

の交渉を證示する好事例たるのみならず、東亞美術の歴史を研究するものゝ貴重な資料となす。

◎京都帝國大學文學部史學科本學年

講義題目

國史概説(第一部)	每週二	三浦教授
港灣の發達	第一學期	三浦教授
明治時代の思想(演習)	第二三學期	三浦教授
國史々料解題及講讀		三浦教授
國史概説(第二部)		三浦教授
藤原時代の文化	第一學期	西田教授
神道學説の研究(演習)	第二三學期	西田教授
史學研究法		西田教授
朝鮮史概説		今西助教
朝鮮古代史		今西助教
朝鮮歴史地理		今西助教
日本古代史の問題(第一學期)	四	喜田講師
明治維新史(第二學期、四十時間)		藤井講師
古文書學總説		中村(直)講師
東洋史概説(古代)		桑原教授
歷史上より見たる南北支那		桑原教授
東洋史概説(近代)		桑原教授
清朝史學		内藤教授
歐煌古書の研究(演習)		内藤教授
最近支那外交史		内藤教授
支那關係外交條約研究(演習)		矢野教授
中西紀事(講讀)		矢野教授
東洋史概説(中世)		羽田教授
中央亞細亞出土文獻解説		羽田教授
西洋史概説(中古及近世)		羽田教授
獨逸史學史(ランケ及ランケ派)		坂口教授
Bryce, Holy Roman Empire.		坂口教授
Schwerner, Papsttum und Kaiserthum.		坂口教授
Ranke, Über die Epochen der neueren Geschichte. (講讀)		坂口教授

ビスマルク時代

二 時野谷助教

西洋史概説(最近世)(第二學期、四十時間)

中村(善)講師

中古末期の文化(第二學期、四十時間)

大類講師

羅馬考古學

日本考古學

Myers, Dawn of History. (講讀)

人文地理概論

天然資源の分布

演習及實習

自然地理概論

歐米地誌(實習指導之ニ附隨ス)

地理學史

地質學概論(上半期理學部講義)

地史學概論(下半期、理學部講義)

地理學書講讀

人類學

日本建築史

二 天沼教授

外交史(第二三學期、法學部講義)

三 末廣教授

●大正十四年度卒業論文題目

京都帝國大學文學部に於ける本年度の卒業論文(中史學地理學に關するもの左の如し)。

史 學 科

(△印選科生)

○國史專攻

維新改革の思想的背景

徳重 淺吉

幕末に於ける攘夷論に就て

三浦 三郎

封建制度の崩壞に就て

△山本 道男

大御所時代は如何なる時代か

△小橋 淺雄

○東洋史專攻

宋元時代醫學史觀

廖温 仁

南宋末の宰相賈似道

宮崎 市定

○西洋史專攻

アマアン條約の前後に於ける英佛關係、大村作次郎

ペルシャ時代(前五世紀)エヂプト主ミしてエーブ及び

スーアンに於けるユダヤ人の研究、 中原與茂九郎

文學科

○國文學專攻

清少納言評傳 清水 泰

近松半二の戯曲に就て 菅原 幸一

鬼眞の研究 鈴木 重雅

鬼眞の俳論と俳風 小林 正治

哲學科

○哲學專攻

シエリングに於ける歴史の問題 松岡 義和

○宗教學專攻

ヘーゲルの歴史哲學に就て 齊藤善太郎

●史學研究會

例會 三月廿二日午後一時半より文學部第六教室に於て開催左の講演あり

歐洲に於ける東洋學資料 文學博士 内藤虎次郎君

此の講演は本誌に掲ぐる所なり、當日主としてビブリ

オテク、ナシヨナル所藏「*Shō*」氏發見の燉煌發掘文書の寫眞、大英博物館所藏の東晋顧愷之筆女史箴圖彩色複製横卷、歷代石磁圖譜、滿洲文西廂記、駐佛公使陳錄氏所藏西太后光緒帝朱批寫眞等の多數の資料を陳列せり。

例會 五月二十三日午後一時半より文學部第十教室にて開催左の講演あり

「日本古代文化」の改訂に就いて 文學士 和辻哲郎君

同君の著書「日本古代文化」の改訂につき魏志、記紀及び考古學の三方面より述べられ、古代には近畿を中心とする文化と筑紫地方を中心とする文化と相對立したりしが此の對立は紀元三世紀前半即ち卑彌呼時代以後に後者の勢力の東漸により消滅せしものと認めらる云々を説かれたり。

浪水考 文學博士 今西 龍君

浪水の意義より之を馬誓水鹽難水刺水帶水等の何れに擬すべきかに就き詳細に論述し此等の諸水が貝水たり得べからざる所以を論じ、清川江こそ所謂浪水に擬して然るべきものなることを幾多の證據に立脚して決論せられ

たり。

## ● 讀 史 會

例會 去三月十六日午後六時半大學々生集會場に於て

開催、三浦西田兩教授以下會員十二名出席左記講演ありて十時散會す。

幕末に於ける攘夷論

文學士 三浦 三郎君

先づ幕末攘夷論の唱へらるゝに至れる經路を尋ね、次にその起因として吉宗時代の宗教關係以外の洋書翻譯解禁をそれに伴ふ知識階級の社會相に對する理解及國學者が國體の尊嚴を主張し内尊外卑が民意なりと熱烈に論じたるこゝが攘夷論を激成せりとなし次に攘夷論は當初防守的のものなりしが次で主戰的色彩を帶べるものとなりその對手も初は露國のみに止りしものが文化五年の長崎に於けるペートン號事件よりして歐羅巴全體に對して敵意を懷くにいたれる事情を述べ轉じて幕末攘夷論の本源たる水戸藩のそれに就て述べその主腦と目されたる藤田幽谷、會澤愨齋等の攘夷的思想を擧げて結論す。

三浦君の講演終て三浦、西田兩教授より本年度國史料卒業會員提出論文に就ての講評ありて後次の講演あり其内容は本誌に掲載するところなり、

新出の法然聖人繪に就て

井川 定慶君

例會 四月二十七日午後六時半より學生集會場に於て開催、參會者、三浦教授、中村講師、其他三十二名左記講演ありて十時散會。

近江高島郡史料探訪談

文學士 徳重 淺吉君

戰國末、柳ヶ瀬峠開通以前の北陸街道は湖西に沿ひたる爲、高島郡に關する古來の史實少からず。又近世に於ては中江藤樹、淺見綱齋、馬場正通等を出せり。此度それ等の遺物に就き調査したるに中江藤樹が世故に長けし一面を有せしこゝ、馬場正通が北海道に於て某婦人と結婚せし事實を發見せり。次に舊千石領に關する打下、鶴川、北小松三村の係争記録は享保以來明治に亙りて保存せられ興味ある民政資料をなし、又大溝藩士の仲間小者に對する雇傭關係は藩政資料として一特色をなす。

維新史料展覽會を見て 文學博士 三浦 周行君

先づ四月の初東京にて開催されたる同展覽會の趣旨より説起して陳列品の順序を逐ひつゝ、其の重要なものを紹介せられ、其の陳列の組織的にして敵味方の史料を二つながら陳列參看に便せられしは頗る意義ある事にて、今日の昭代にして始め望み得べし。只創設以來、十五年間に成りし稿本二六七九冊は大體單なる史料の羅列に止りて其の價值批判を避けられたるも關係者の現存する最近世の官撰史料としては蓋し已むを得ざるべく公平且つ自由なる後世史家の批判に材料を提供するものとしては寧ろ適當なりとすべしと結ばれたり。

例會 五月二十九日午後六時半より學生集會場に於て開催、三浦、今西兩博士外十七名參會、左記の講演あり午後十時散會す。

ハアメルの朝鮮漂流記に就て

文學博士 今西 龍君

滯英中、いかにして歐洲人は朝鮮を知りはじめしかざいふこゝに就ての文獻調査を試みられしこゝより、歐洲に於ける數少き朝鮮關係史料中より、此度將來したる

Thamの漂流記を紹介せられ、蘭人ハアメルは一六五三年オランダを出發、一旦バタヴィヤに趣き更に臺灣に寄港、同年七月わが長崎に向ふ途中大暴風雨に遭遇し、乗船大破に及び一行六十餘人中三十六名だけ漸く朝鮮濟州島に漂著したり。彼等は當時朝鮮に於ける國風によつて歸還を許されず、抑留十數年具に辛慘を嘗め遂に一六六六年顯宗王の七年九月彼等の中十二名のは脱れてわが平戸に來り長崎を経て歸國したり。ハアメルはこの脱走者中の一人にて、後その漂流記を著したるがこの書は各國語に翻譯せられ廣く歐洲人に愛讀せられ其の朝鮮に關する智識は多くこれに採れり云々と説かる。

朝鮮に於ける外國人 文學博士 三浦 周行君

朝鮮は支那の藩屬國たりしが爲に、國內に於ける對外關係がその宗主國たる支那に傳へられんことを恐れ、たえずこれを隱蔽するに努めたる事情を述べられ、其一例として日本より朝鮮を經由して歸國せんしたる明人が異常の歡待によつて歸國をはばまれたる史實をあけ、又朝鮮と瓜哇や琉球との交通を説き、更に我國との關係特



に應永年間の對馬に來寇したる事情を述べ、更に轉じて是等の隠れたる史實を傳ふる李氏實錄の事を説き最後に今後の國史研究に於ては外國にある史料を博搜し以て精透中正の見解を立つべしと論結せらる。

### ●支那學會

例會 五月十四日木曜午後六時より第十教室に於て、新入會員歓迎の意味を兼ね、講演會を開催、當日演題左の如し

王伯成の天寶遺事に就て 文學士 倉石武四郎君

已に散佚せる天寶遺事を、九宮大成、綴白裘等より原作の復舊を試み、この曲の支那戲曲史上に於る位置を論ず。

新に支那に於て發見せられたる朝鮮史資料

文學博士 今西 龍君

近年洛陽より出土せる泉蓋男生、男産の墓碑銘外一點につき解説さる。

### ●西洋史讀書會

例會 大正十二年二月以來中絶してゐた西洋史讀書會は本年四月二十五日を期して復活することになり同日午後六時より學生集會場にて其第一回例會を開く。坂口教授、時野谷助教授、卒業生在學生十七名の出席あり、談笑裡に晚餐會を共にし後に左の紹介あり

E. A. Powell: The Struggle for Power in Moslem Asia

文學士 竹林 熊彦君

主としてアンゴラ政府成立の由來に就て述べらる。

例會 五月二十一日、學生集會場にて開會。出席者、坂口教授、時野谷助教授以下十七名、左の紹介あり。  
猶太教成立に關する一史實に就て

文學士 中原與茂九郎君

祭司エズラによりてバビロンにて組織せられし猶太教は波斯王權を脊景として前四四五、エルサレムにて成立せられた。猶太教成立事情に關する資料は舊約書中のエズラ、ネヘミヤ兩書なるが該書の資料さなれるベルシヤ

諸王の勅令に關しては從來議論ありしものなるが一八九八、ナイル上流のエレフアンティネにて發掘せられし、「アラマイク文書」中の前四一九猶太人に發せられしダリウス二世の勅令により、エズラ、ネヘミヤ書中の勅令の史實が確認せらるゝにいたりしこゝを論ず。

コペンハーゲンの海戦に就て

文學士 大村作治郎君

一八〇一、ネルソン提督麾下の英國艦隊が丁抹首府コペンハーゲンを攻撃して丁抹艦隊を撃破し、砲臺を陥入れ、その結果丁抹は北方會盟より脱退し The Second Armed Neutrality League は崩壊し、やがてアマリアン會議を起す遠因を作るこゝを述べらる。

### ●考古學談話會

四月二十八日午後六時から考古學教室の談話會が京都帝國大學々生集會場にて開會せられ多數の參會者あり左の三氏講演があつた。

近畿附近の石器時代遺跡に就て

島田 貞彦氏

關東や東北地方に比し近畿附近は、問題にならぬ程該遺跡遺物に僅少であるが、其の價値は多い。大正六年、河内國府發見の人骨は近畿附近のみならず日本全土に亘つての該時代研究に一時期を劃した。爾來近畿附近の遺跡も頗る究明され前期遺跡と目さるゝものは大和河内近江に數ヶ所山城丹後和泉に各一ヶ所等に止つてゐるが河内國府は該時代に於ける一大集群地であつて將さしく近畿地方の首府に値する。次で後期遺跡は各所から豊富に發見せられ就中、大和河内を最とする。これは有史以後に引續く當地方の古代文化を反映する集群と見られる。又た銅鐸分布の濃厚な近畿附近は該時代遺跡と密接な關係を有するものでなからうかと思へる。

朝鮮新羅の古墳と日本の古墳

梅原 末治氏

日本及び朝鮮にて發掘せられた重要な古墳内容物が近時著しく兩者密接な關係を示現してゐるこゝは慶州金冠塚、金鈴塚其他の内容遺物が示してゐるがこれに反し兩者の墳墓築營に相似を見ないものがある。即ち朝鮮のものは其の包藏さるゝ、棺槨が多く地平線以下であるに反

し日本のそれは封土上に包藏せられてゐる。此の事實は日本の墳墓が葬者の生前に着工せられてあつた云ふことを物語るものであらう。

●日本の石佛に就て 文學博士 濱田 耕作氏

從來日本彫刻史云へば銅造木造塑造乾漆造等に限り石造彫刻は支那朝鮮の豊富なるに比し、其の存在の有無を忘れられて居り僅に近畿附近の奈良春日山中、同十輪院笠置田なまが代表せられて居つたに過ぎなかつた。

大正三年京都大學の小川琢治博士が九州豊後地方の磨崖佛の調査あつて其の價値を認められ爾來各地の石佛の存在を傳へられ就中、下野宇都宮附近大谷寺、磐城相馬郡福浦在のものは豊後のものに劣らないもの云へる。此等の中にて九州豊後附近のものは考古學研究報告第九冊として近々出版を見るものであるが其の分布は大分市附近、臼杵町深田、大野郡等に著明なるものを見る。此等の造像は凝灰岩を對象とするに於て統一され、且つ其の加作が木彫と異なるなきを示してゐる。石彫の年代は

其の様式に於て特殊の造像の存在するところからして恐らく密教傳來以後のものであらう。

會 報

●寄贈交換圖書

堺市史講演集	堺市役所
院政時代の供養日録	東京帝室博物館
郷土會記錄(柳田國男編)	大岡山書店
海南小記(柳田國男編)	同上
國體新論(黑坂勝美著)	博文堂
大和特建國寶石佛(上田三平編)	飛鳥園
東洋學報 一五の一	東洋協會學術調查部
國學季刊 一の四	國立北京大學
佛教研究 六の一	大谷大學佛教研究會
密宗學報 一四〇—一四三	眞言宗京都大學而眞會
商業と經濟 五の二	長崎高等商業學校研究館

史學雜誌 三六の二・五

史 學 會

東亞之光 二〇の三

東 亞 協 會

國學院雜誌 十四年二・三・四・六

國 學 院 大 學

龍谷大學論叢 二六〇・二六一

龍谷大學論叢社

親鸞上人研究 四二・四三

梅原真隆氏

觀想 三月號

東洋大學內觀想發行所

人類學雜誌 三九の一〇—一二・四〇の三・四・五

東京人類學會

考古學雜誌 一五の四・六

考 古 學 會

伊豫史談 四一

伊 豫 史 談 會

史學 四の二

三 田 史 學 會

歴史地理 四五の五・六

日 本 學 術 普 及 會

山陰史蹟 一の一

山 陰 史 蹟 協 會

T'oung Pao (通報) Vol. XXIII No. 4

Paul Pelliot

● 會 員 動 靜

● 入 會

靜岡縣立日付中學校

田 中 友 次 郎 氏

(右紹介者 十河佑貞氏)

長野縣立飯田高等女學校

市 村 成 人 氏

(右紹介者 市村與市氏)

京都市外山科村安朱、安達方

三 木 一 天 氏

(右紹介者 横地得三氏)

京都市馬町通東山西入鐘鑄町

三 宅 宗 詮 氏

(右紹介者 三浦周行氏)

京都帝國大學文學部史學科學生

今 石 二 三 雄 氏

京都市上京區岡崎真如堂前町九、鹽田方

藤 直 幹 氏

大阪府北河内郡守口町瀧井五〇四

天 野 高 信 氏

(右紹介者 島田貞彦氏)

京都市外大崎町上大崎二九八

松 田 壽 男 氏

京都市牛込區東五軒町三五

森 五 郎 氏

(右紹介者 三島一氏)

東京市外下戸塚五二〇、信愛學會

禹 浩 翊 氏 氏

(右紹介者 津田左右吉氏)

● 退 會 奧秀太郎氏、樋口津彌太郎氏、山本辰一氏

● 死 亡 柳貫一氏